

映画「恋するトマト」で主演俳優・大地康雄さん語る

8月22日、農村環境改善センターで映画「恋するトマト」(2005年作品、南部英夫監督)の上映と主演・大地康雄さん、原作者、小檜山博さんのトークショーが行われました。



同映画上映実行委が主催しました。会場は300人を越える観客で埋まりました。小檜山博さんの原作「パラオレノン」を元に、大地さんが企画・脚本・製作総指揮・主演をした作品。

農家の長男に生まれた45歳中年男の主人公「正男」が、フィリピン女の結婚詐欺に遭って結納金をだまし取られ、行き場を失ってフィリピンですさんだ生活をするうちに、生き生きと働く若いフィリピン女性「クリステイナ」と出会い、純粋な愛を育んでいくという人間讃歌。

会場を訪れた大地さんにとっては「13年がかりで完成させた」という作品だけに思い入れも強い作品となつたよう。

陶芸・茶道・絵手紙など、クラブ活動体験に興味津々

東川第一小で外部講師を招いてクラブ活動の文化講座を開きました。陶芸、茶道、絵手紙の3回講座。3年生以上18人の児童が初めての体験に目を輝かせました。



陶芸は大皿作り。粘土をのびし、丸い皿型プレートに張り付けて型取りし、色粘土で模様をつけました。後は焼き入れ完成を待つばかり。10月26日の学芸会で作品展を開きます。出来上りがみんな楽しみです。

また、ヒロイン・クリステイナ役のアリス・デイクソンとの出会いや温かな人柄などにも触れ大きな拍手を浴びました。

豊かな森の再生願って野鳥の森公園で植樹

9月4日、大雪旭岳源水に近い野花南(ノカナン)の野鳥の森公園で、町内の小学生80人が参加して実のなる木などを植樹しました。

道開発局が進めている「石狩川流域1人1本300万本植樹運動」の一環として4年目の植樹になりました。「地域住民による植樹2008」と名づけ(財)石狩川振興財団が主催しました。

心としたメニューが多く、外部講師の講座は初の試み。陶芸と茶道は、町内の陶芸家、滝本宣博さん、ふれあいサポートクラブ員の西分ひとみさん、絵手紙は旭川市内の梶山せつ子さんが来校しました。

ユニティセンターで裏千家流の流儀を学びました。慣れない正座の座り方や姿勢、所作や作法を学びました。児童にとってほとんどが初めての体験。新しい世界が一つ開けたようです。

な森を作ってくれことを願って、苗木周辺の雑草採りにも精を出しました。

直径約3尺の円を50サークル設けました。円内に児童の手でナナカマド、キタコブシ、キハダ、ハルニレ、オニグルミ、ミズナラ、エゾヤマザクラなど、11樹種550本の苗木を混植しました。

近くでは、以前植えた苗木も元気に育っていました。子どもたちは去年植えた苗木が元気に育っている様子を見て満足げ。大きく育って立派

